



太い梁や小屋 真などを開放し、建物の構造を見せて、昔の姿に戻すのが内装のポイント。タイルはイタリア製、壁の色ガラスはフランス製、壁のレンガは久留米製。和と洋が見事に融和している。

家づくりの  
お宅訪問 00  
visit a new house!  
& report

ハウスランド社  
の展示場  
モデル住宅「風のくら」

## 古き良き和の家が 西洋のテイストと奏で合う 新しい魅力

昔懐かしい古民家の扉を開けると、ノスタルジックな西洋のテイストが落ち着いた和の空間に溶け込む。「ハウスランド社」が手掛けるモデル住宅で、古民家の新たな可能性に魅せられました。



モデル住宅「風のくら」は、築140年ほどの古民家。今や希少な地蔵が贅沢に使われており、外観は純和風だが、家の中は西洋の住空間を彷彿させる佇まい



右/ 広々とした玄関は、土間付きの住居ならではの贅沢な空間。ご近所さんなども集まりやすい開放感が魅力。左/ 職人の丁寧な仕事が見え、無垢材の暖かみと安らぎまで伝わってくる

土間の再生で開花した、  
日本×西洋の特別な住まい

どっしりとした梁や柱、アンテナイック感が伝わるテラコッタのタイル、温もりを放つ無垢材の造作棚、色ガラス付きの扉。玄関から一歩入ると、和と洋が奏で合う素敵な空間が広がり、スケールの大きさに感動する。まさか豪華な屋根の家の中が、こんなに洗練されているとは、正直驚いた。

このモデル住宅「風のくら」を

手掛ける「ハウスランド社」の代表・三上さんによると、昔ながらの古い日本家屋は、インターナショナルなポテンシャルを持つという。「本物」と呼べる天然素材で作られているからでしょう。さまざまなテイストを受け入れられる「懐」があるんです。スイスなど、ヨーロッパの田舎にも「風のくら」のような家屋があり、そこでも地の自然のものを材料にして、伝統技法で作られている。国は違えど、家づくりの根っこ部分が共通しているので、それぞれの要素を融合させてもバランスが取れて、調和するのだ。



リビングの板の間には、小窓の杉を使った浮づくり仕上げ。引き戸にはフランスの色ガラスを取り入れている